

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 4 部門第 1 区分

【発行日】平成25年4月4日(2013.4.4)

【公開番号】特開2012-162911(P2012-162911A)

【公開日】平成24年8月30日(2012.8.30)

【年通号数】公開・登録公報2012-034

【出願番号】特願2011-23805(P2011-23805)

【国際特許分類】

E 0 2 F 9/08 (2006.01)

【 F I 】

E 0 2 F 9/08 Z

【手続補正書】

【提出日】平成25年2月13日(2013.2.13)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 3 9 】

2 4 は左後縦板 2 0 の前部上端側に設けられた左側の前上フランジで、該前上フランジ 2 4 は、平板状の板材を用いて形成され、その長さ寸法は、図 9、図 1 0 に示す如く左後縦板 2 0 の前部 2 0 A の前端側と左前縦板 1 4 の後端側と左、右方向で重ねた重ね部分、即ち両者の接合部 2 2 を上側から覆う短尺な長さに設定されている。前上フランジ 2 4 は、左後縦板 2 0 の前端側と左前縦板 1 4 の後端側との重ね部分（接合部 2 2）の上端を上側から覆った状態で溶接により接合されている。これにより、図 1 0 に示すように断面 I 字形のビーム構造が、センタ底板 1 3、左前縦板 1 4、左後縦板 2 0 および前上フランジ 2 4 により形成されている。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 4 4 】

2 9 は左、右の後縦板 2 0、2 1 間に接合して設けられた横板で、該横板 2 9 は、下端側がテール底板 1 9 の前端部に接合され、左、右方向の両端側が後縦板 2 0、2 1 に接合されることにより、テール底板 1 9 と後縦板 2 0、2 1 とを互いに一体化するように連結している。横板 2 9 は、後述の後横板 3 0 よりも図 2 に示す寸法 L 分だけ短尺な平板材を用いて形成されている。横板 2 9 の左側端部は、左後縦板 2 0 の前部 2 0 A 側に接合されている。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 5 5 】

このとき、左後縦板 2 0 は、前部 2 0 A 側と後部 2 0 B 側とを右後縦板 2 1 と平行に前、後方向に延びるように形成し、前、後方向の中間部には、左外側へと寸法 L（図 2 参照）分だけ張出すように折曲げられた折曲げ部 2 0 C を予め形成しておく。また、前部 2 0

A の上端側には、左前縦板 1 4 の後部上端側に向けて突出するように短尺な前上フランジ 2 4 を溶接により接合しておく。一方、右後縦板 2 1 の上端側には、その全長にわたって延びるように長尺な上フランジ 2 5 を溶接により接合し、上フランジ 2 5 の前端側も右前縦板 1 5 の後部上端側に向けて突出するよう配置する。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 7 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 7 0】

この場合、左前縦板 1 4 の後端側と左後縦板 2 0 の前端側とを、図 9、図 1 0 に示す如く左、右方向で互いに重ねた状態で溶接による接合部 2 2 を形成することができる。そして、短尺な前上フランジ 2 4 を両者の重ね部分に上側から被せるように接合して設けることにより、断面 I 字形のビーム構造を形成することができる。このため、左前縦板 1 4 の後端側と左後縦板 2 0 の前端側との繋ぎ目となる接合部 2 2 における曲げ剛性を高めることができ、左後縦板 2 0 の板厚を最小限の厚さに抑えることができる。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 7 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 7 3】

この場合、左後縦板 2 0 は、右後縦板 2 1 のように全長にわたる上フランジ 2 5 を設けていないため、前述の如き旋回フレーム 1 1 としての強度を確保する上で、例えば左、右の前縦板 1 4、1 5 よりも厚い板材で形成せざるを得ない。しかし、左後縦板 2 0 の上端側には、前述の如き短尺な前上フランジ 2 4 とウエイト取付部 2 6 を構成する後上フランジ 2 8 とを設ける構成としている。